

第8回 雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会（令和2年2月7日開催）

水防災意識社会再構築に向けた緊急行動計画の改定を踏まえた、「雄物川の減災に係る取組方針（改定案）」の承認、台風19号等を踏まえた今後の減災対策に関する意見交換、今年度の取組等に関する話題提供を行い、情報共有を図った。

- 緊急行動計画の改定を踏まえた規約改定として、利水ダム管理者である東北電力株式会社 秋田発電技術センター所長を委員に追加することで了承を得た。
- 協議会委員19名の参加のもと、緊急行動計画改定について議論した幹事会の議事報告及び取組方針の変更・追加箇所に関する内容を説明した上で、「雄物川の減災に係る取組方針（改定案）」が承認され、令和2年2月7日付けで取組方針の改定案のとおり改定することになった。
- 台風19号等を踏まえた今後の減災対策に関する意見交換を行い、今後も引き続き情報共有を図るとともに関係機関が連携することを確認した。

開催日：令和2年2月7日（金） 会場：大仙市大曲交流センター 講堂

委員構成： 秋田市長*	秋田県 総務部 危機管理監*	国土交通省 秋田河川国道事務所長*
横手市長*	建設部 部長*	玉川ダム管理所長
湯沢市長*	秋田地域振興局長	湯沢河川国道事務所長
大仙市長	仙北地域振興局長	成瀬ダム工事事務所長*
仙北市長*	平鹿地域振興局長	
美郷町長	雄勝地域振興局長*	
羽後町長	気象庁 秋田地方気象台長	
東成瀬村（欠席）	東北電力（株）秋田発電技術センター所長	※代理出席



＜協議会の開催状況＞

主な発言内容（発言順）

- 大仙市長
 - ・東日本を中心に、軒並み総雨量500mmを超えており、改めて避難・情報伝達などのソフト対策が重要と考える。
 - ・避難所の避難体制について、今後、民間施設を含めた避難所、避難場所の見直しを検討している。
 - ・今後市町村の枠を超えた広域避難についても検討していかなければならない。今後の協議会においても、広域避難体制の構築に向けた協議をぜひお願いしたいと強く感じている。
- 美郷町長
 - ・気象台からの情報が非常に重要であり、それを基に出来るだけ早く判断し、判断に基づいて自主避難所の開設など様々実施している。
 - ・河川の本流の改修が進むと、堤体等は高くなりその分越水のリスクが低くなる反面、流入する河川のバックウォーター現象について、同時に注視、あるいは対策を講じないといけない。
 - ・NHKの文字データでの情報発信が非常に重要である。与えられる情報が多ければ多いほど、私どもは判断しやすいし、その情報発信を関係機関、報道機関との連携を今まで以上に強化することで、住民の被災の程度を軽く出来ると思う。
- 羽後町長
 - ・堤防は丈夫に作っていただいているが内水の排除が出来ず、台風19号では床下浸水が発生した。
 - ・新しい浸水想定に合わせたハザードマップを今年度冊子のような形にして作り、間もなく各家庭全戸に配布する。
 - ・台風19号の際、Facebookを使って直ぐに画像と一緒に状況を発信し、関係される方からすぐ反応があった。自分たちの地域の写真付きの場合は非常に身近に感じ、自分事になる。
- 横手市長（代理：総務企画部 危機管理監）
 - ・今年度、マイタイムライン及び要配慮者利用施設の避難確保計画作成講習会を計4回開催し、参加者は、非常に防災意識が高いことを感じた。
 - ・平成29年7月以降、昨年度も4回ほど自主避難所を1日、2日前から開けるということに取り組んでいるが、住民の方々の防災意識が高くなっているとはいえ、なかなか事前に逃げる住民は少ない。
 - ・広域避難について、横手川の浸水想定区域が示されたが、対象地区には高層避難所がない。農村地区のため、どのように避難をさせるかが緊急の課題となっており、良い方法があればご教授願いたい。
- 気象庁 秋田地方気象台長
 - ・昨年、台風19号であれだけの大きな被害があった。気象庁では、数十年に一度の大雨に備えることを目的に平成25年から特別警報の運用を始めているが、ここ3年、毎年のように、特に昨年、一昨年は10都府県以上の広い範囲で特別警報を出さざるを得ないという状況になっている。
 - ・雨の降り方が局地化、激甚化、集中化と、大きく変わってきているという実感を持っている。
 - ・大雨は、秋田についても例外ではなく、しっかりと備えていく必要がある。
 - ・管区気象台では、地方整備局と合同の記者会見を実施したが台風や豪雨の時にしっかりと危機感を伝えるために、積極的に記者会見を行っていると考えている。
 - ・減災については、平成30年7月豪雨などでハザードマップがある程度有効であるという指摘をいただいている。ハザードマップを見ていたという人の方が避難行動をとるのが早かった、あるいは避難行動をとった人の割合が多かったというアンケート結果もあるので、ハザードマップを作成された後は、住民の方々にしっかりと認識してもらえようという取り組みを繰り返していく必要があると考えている。

＜意見交換会の状況＞



大仙市長



美郷町長



羽後町長



横手市危機管理監



秋田地方気象台長